

先代方丈黒田武志老師が発願し発刊された『成寿』も四十七巻を数えます。

檀信徒の皆さまに親しみを込め、解り易く仏教を説き続けた先代方丈さまのお心を今一度追慕し『成寿』に掲載されたお話を再録させて頂きます。

元号が平成に代わった一九八九年、善光寺留学僧育英会は五年目を迎えその活動が注目されるようになりました。立正佼成会の庭野会長との対談に先代方丈さまのお人柄や情熱が伝わって参ります。

立正佼成会・庭野会長と対談

## 世界に活眼を開く人材を育成したい

庭野先生のご活躍に感銘

庭野 あなたのご活躍は『中外日報』などにも紹介されていて、以前からお会いしたいと思っ  
ていました。

黒田 光栄です。私も、庭野先生のご著書を全

巻そろえておりまして、先生のご業績を存じあげているつもりです。それに私は、大聖堂に参  
上するのは二度目でございます。



**庭野** そうですか。

**黒田** 昭和三十九年の、大聖堂の落成式典に連なりました。当時、私の父の黒田白純が全日本仏教会の事務総長をしていて、落成式典に曹洞宗の代表としてお招きをいただいたのです。私は總持寺（横浜市鶴見区）で修行中でしたが、父が「倭成会はいまに世界の倭成会と呼ばれる教団になるはずだから、おまえも勉強のために行きなさい」というので、若輩ながら参列させていただきました。

**庭野** なにか参考になりましたか。

**黒田** それはもう……。私どもが大聖堂の玄関で車から降りますと、おたすきをかけたご婦人が整列されていて、非常に丁寧に案内してくださいました。その一挙一動に信仰の深さを感じ出ているんですね。そういうご婦人方を見たのは初めてで、「ほんとうの信心を持たれているなあ」と強い感銘を受けました。以来、庭

野先生のお姿を遠くからお見受けする機会は何回かございましたが、本日は直接お話しすることができて、たいへんありがたいことと思っております。

**庭野** それはどうも……。黒田先生は、私どもが進めている世界宗教者平和会議と同じように、宗教協力を進める事業を計画されているそうですね。

**黒田** 世界宗教者平和会議に代表される庭野先生のご活躍は、すでに世界的な評価を得ていますが、それに比べればアリのように小さなことです。私には世界にひろめたいという願いがあるわけです。それにはまず、仏教徒として海外で活躍できる人材の育成が肝心だと考えまして、ささやかながら実践活動をつづけております。

**庭野** ほんとうに立派なお仕事ですね。

**黒田** 庭野先生は、法華経の教えにもとづいて

世界平和の実現を推進されています。私は禅僧ですが、毎日、法華経の写経をしていて、いわば法華経を心のよりどころにしているわけです。法華経の実践面でいえば、庭野先生と藤井日達先生が現代仏教のなかで最高の指導者だと信じてきました。

**庭野** これはどうも……。黒田先生はたいへん行動的な方で、いまなさっているお仕事は海外派遣僧育英会でしたね。そのお話をうかがいましょう。

### 一口運動の実践

**黒田** 私は駒澤大学の大学院を出てから鶴見の總持寺や福井の永平寺で修行し、仏舍利奉拝行脚を志して日本一周しました。それからタイに留学したり、アメリカで向こうの人と坐禅したりして、比較的長い期間、海外で生活してきました。日本にもどり、横浜に善光寺という小さ

な寺を開きましたが、十八年間で予想以上の檀家さんでもでき、寺として一応の基盤がまとまりました。そこで報恩行の一端として、海外に派遣する留学僧を育成するため育英会を設立したわけです。この四月で五回生が出ました。

**庭野** たしか、育英会の留学僧は宗派や国籍、男女の別を問わないことになっていますね。中国の方も韓国の方もいらっしゃるとか……。失礼ですが、育英資金もたいへんでしよう。

**黒田** はい。佼成会では「一食運動」を進めていますね。私どもでは、二千数百戸の檀家の方々に「一食ささげてほしい」とお願いしても、なかなかむずかしい。あれは庭野先生のような大指導者がいらっしゃるから可能なのです。そこで、毎食一口だけ節約するという「一口運動」を提唱しました。一口というと、一食あたり一家族で約十円の節約になります。そういう浄財を喜捨していただいて、一年間で相当の額にな

ります。

海外での修行を通じて広く世界に活眼を開く人材を育成したい。それと同時に、少しでも多くの世界の方々に、お釈迦さまの教えをひろめたい……。そうした大きな望みを、私に相応した次元で展開しております。

**庭野** 仏法がひろまるかどうかは人材いかによりますからね。正しい話がひろまらないと、国は栄えない。同時に、法をいきいきとしたものにするのは、その人の実践いかんによるわけです。

**黒田** ほんとうに同感です。日本は世界最大の仏教国でありながら、世界の大勢に即応して教化の実をあげるシステムに欠けています。私は、その面でも人材育成の重要性を痛感しています。それも、国際感覚の豊かな人材の育成が望まれているわけです。

**庭野** 私のところにも、学林という教育機関が

あります。大学を卒業した青年が仏教を専門的に学ぶところですが、学林を出た青年がほとんどヨーロッパへ行っています。この青年たちが向こうで法華經の講義をしてくるのです。バチカンで一年ほど勉強させてもらい、キリスト教の教えを学んだうえで、ヨーロッパ諸国の教会や学校で法華經の教えを説くわけです。

**黒田** 私のほうは微々たる力ですが、息ながくつづけていきたいと思っています。日本を救うためには世界を救わなくてはなりませんから……。

**庭野** そのとおりですよ。日本だけ救おう、日本だけよくしようとしても、そうはならない。世界を救おうという気持ちになれば、自然と日本もよくなっていくのです。そして、ほんとうに世界を救おうとなると、仏教の教えをひろめるのがいちばんの早道なのです。

### もつとアジアを大切にしたい

**黒田** 庭野先生は、世界宗教者平和会議と同時に、アジア宗教者平和会議を進めていらっしゃいますね。

**庭野** 世界宗教者平和会議の第二会議がベルギーで開かれたとき、「アジアの宗教者だけで平和会議を開きたい」という声が出てきたわけです。

**黒田** 私はタイで修行してきたこともあって、その経験から日本の宗教者も、そして日本のみなさんも、もつともつとアジアを大事にしなければならぬと思っています。

**庭野** いまは、政治家や経済界の人たちも、欧米にばかり目が向いていますね。そういう欧米一辺倒の姿勢ではなく、アジアやアフリカのよいうに、困難の多い国々のことを大事にしてほしいですね。

**黒田** 私が残念に思うのは、たとえばビルマ、

ラオス、カンボジアなどの伝統的な仏教国で、  
仏教が衰退していることです。日本人はアジア  
にもっと目を向けるべきですが、われわれ仏教  
者の側にも、仏教を通じてアジアの問題解決に  
尽力しようという視点や実践が、まだまだ足り  
ないのではないのでしょうか。

**庭野** とくに発展途上国では教育の充実が急務  
ですから、そういう考え方がポイントになりま  
すね。ですから、その国の宗教者と力を合わせ  
て正しい教えを守る人間を育てていくような、  
精神的な援助も必要ですね。

**黒田** 「和を以て貴しと為す」ですね。庭野先  
生がおっしゃるように、法華経の精神による宗  
教協力を進めていく。そして「生まれてきてよ  
かった」「安心して死ぬる」といえるような状  
態を、私たちみんながお手伝いをしてつくり出  
さなければなりません。

**庭野** あなたがタイで修行されたことで思い出

しましたが、「これは恐れ入った」と感服した  
ことがあります。

**黒田** 私のことですか……。なんででしょうか。

**庭野** 宗教家がいちばん導きにくいのは家族で  
す。ところが、あなたはお子さんたちを、タイ  
のお坊さんのもとで上座仏教の得度をなされ  
た。

**黒田** 私は子どもたちに、「ただ素直になれば  
いい。もし、修行のために倒れるようなことが  
あってもいい。とにかくがんばりなさい」と言  
いきかせています。

**庭野** 他人に説法するのはわけではないけれど、  
自分の妻や子どもを心から納得させるのは容易  
ではありません。それを黒田先生はみごとなさ  
っている。

**黒田** 家族だと思うと、これはむずかしい。で  
すから私は女房に「仏さまからお授かりしてい  
る養子みたいなものだ」といってます（笑）。

もつとも、そういう意味では庭野先生は世界一の養子になりますね。

**庭野** 自分が尊敬するお師匠さんにお子さんを預けて、厳しい戒律をしつかり守らせる。それを奥さんにも承知させて、お子さん四人にタイ式の得度をさせられた。非常に尊いことですね。

**黒田** 先生にほめていただけで、人生でこれ以上のことはありません。

**庭野** 先年、バチカンからご招待があつて、私の長男が孫をつれて行つてきました。私は前の教皇さまの時代からバチカンとは親しくさせていたのですが、私の信仰を長男が引き継ぎ、三代目の孫たちも法を守っていくということで、教皇さまが祝福してくださったわけですよ。孫たちにはほおずりしてください、しっかりと歩んでいくよう励ましてくださったというのです。

**黒田** それはすばらしいですね。

**庭野** 帰国して孫が「おじいちゃんって偉いんだね。教皇さまが偉いとおっしゃってた」という（笑）。急に尊敬されるようになりました。

**黒田** 尊いことですね。

### 説く人と聞く人が一体になる

**黒田** 私のところでの話ですが、玄関の履き物は子どもにそろえさせました。子どもが黙ってそろえていると、私は「声を出して『履き物を直させていただきます』といいなさい」と教えました。黙って直すよりも、口で「させていたたく」といつて実行することが大事だと思いますね。

**庭野** 結構なことだと思いますね。鎌倉仏教の祖師方でも、法然上人や親鸞上人はお念仏を唱え、日蓮聖人はお題目を唱えることを教えられました。心でわかつていれば、口で唱えなくてもいいのではないかと考え方もあります

が、実際に口で唱えることで、お題目やお念仏と一つになりきれれるのです。口に発露することが非常に大事です。

**黒田** おっしゃるとおりです。禅には禅の修行としての形がありますが、これは一般の方には少々むずかしい。一方、「南無妙法蓮華経」「南無阿彌陀仏」と唱えるのは、だれでもが実行しやすいことですね。

**庭野** 自分が選んだ信仰ですから、それを言葉に発露するのは自然ですし、ごく当然のことです。

**黒田** 庭野先生は信者さんの前でいつも熱心に法を説かれていますね。たいへん尊いことだと思っっています。説く人と聞く人が一体になるところに、仏法が受け継がれていくのだと思うのです。

**庭野** それに、わかりやすく説くことが大切ですね。

**黒田** 私は、法華経をじっくり読めば、先祖供養の大切さを教えているように思えるのです。

そして、法華経の教えの中心はやはり「自我偈（如来寿量品の偈文）」になるのではないでしょうか。

**庭野** 「自我偈」は久遠の本仏の常住説法を教えてくださいませんか。もともと、法華経は二十八品どこを読んでも、この教えを實踐する人はさまざまな功德が得られるというか、「かくすればかくなる」ということをこまかく説いています。

**黒田** 道元禪師も「法華経は諸経の大王なり」と説かれています。私自身未熟でわからないことだらけですが、法華経が最高の經典の一つであることは、道元禪師の言葉からも庭野先生のご著書からも理解できます。

**庭野** しかし、なにごとくも実践がともなわなければなりません。あなたの実践力はすばらしい



なと感嘆しております。

**黒田** 私は庭野先生の真似ごとをさせていただいているだけです。それも、規模の小さい形で……。先生のお徳を多少なりとも頂戴できればと存じております。

**庭野** 多少どころか、黒田先生のなさっているお仕事は立派ですよ。仏教がどれほどすばらしい教えでも、海外へ出て行って布教のできる人がいなければ、世界のすべての人を幸せにするという願いも果たせません。そういう人材の育成に力を入れることは、ほんとうに尊い事業です。ご健闘をお祈りします。



